

令和4年度入学生用カリキュラムマップ

【臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例: ◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	
22MCEC1001	臨床教育学総論	1	日本の臨床教育学の開拓の試みは、1990年ごろから、新たに始まった。こうした臨床教育学の構想を、本学の臨床教育学研究科で蓄積されてきた研究・教育の努力と到達を踏まえながら、整理して提示する。	受講生のみなさんには、本講義の内容との関連で、臨床教育学のイメージを描き、自分自身の研究関心を明確にしてほしい。	◎	◎												
22MCEC1002	臨床教育学総合演習	1	子ども・若者の生育の過程、親・保護者の暮らしと子育ての営み、福祉・医療・心理臨床・教育、労働・行政・法律などの諸領域ではたらく「発達援助専門職」の実践などについての具体的な事例を検討し、受講生のみなさんが、心理学・福祉学・教育学の研究視点の独自性と共通性を理解し、それらを総合しようとしている臨床教育学のイメージを具体的に描けるようにしたい。	領域横断的なカンファレンスの体験を通して、臨床教育学的な事例報告とその検討の仕方を獲得することを目標とする。									◎					
22MCEC1301	課題研究Ⅰ	1	受講生の関心領域に関する知見を文献研究によって拡げることを目的としている。 文献は、書籍、雑誌を用い、扱った文献の理論的背景、方法などについて批判的に読み解く。 このことを通じて自身の修士学位請求論文の問題意識を明確にする。	修士学位請求論文の問題部分に関する理論的枠組みを構築するため、受講者の問題意識を、理論的に整理し、他の研究者や学生に説明できるようになることを目標としている。									◎					
22MCEC2302	課題研究Ⅱ	2	各自の修士学位請求論文完成に向けての理論的検討と、関連諸領域の文献検討を通しての、具体的研究の実現にある。	本授業の目標は修士学位請求論文の完成である。このため、次の各点までの到達が求められる。 1. 課題研究Ⅰにおいて明確になった各自の問題意識を文章表現する。 2. 研究の方法を明確化する。 3. 中間発表等の機会を通じて、自身の問題を批判的に考察できるようになる。 4. 修士学位請求論文の完成。									◎					
22MCEC1003	実地研究	1	自身の専門領域と異なる実践現場を訪問し、異なる視点から各自の実践や研究活動を振り返ることを目的としている。	自分の専門領域と異なる実践現場の見学を通じて、研究の広がりを得ることを目標としている。													◎	
22MCEC1004	調査研究計画	1	資料検索などを通じて各人の研究関心を明確にするとともに、研究目的の設定とそれに伴う研究計画の立て方を解説し、受講者は修士学位請求論文作成に向けて実践していく。	1. 自身の取り組むべき関心を見つけ、それを整理して説明できるようになる。 2. 関心ある領域の先行研究を的確に検索できるようになる。 3. 研究目的に応じた研究計画を立てられるようになる。 4. 調査および論文作成上の決まり（論文構成、引用の仕方、参考文献や注の書き方、倫理的配慮など）を知る。 5. アンケート作成の手順を知る。 6. 簡単な統計結果の読み方や検定の仕方を知る。									◎					
22MCEC2005	教育調査・統計法	2	教育に関する調査・統計を行うための基本的な考え方を身につけるとともに、統計ソフトSPSSを使用してのデータ処理の仕方、および統計結果の読み方などについて学ぶ。	1. データの取り方、データの入力、確認の仕方を身につける。 2. SPSSを使用して、集計および基礎的検定の操作を覚え、その読み方、解釈の仕方を身につける。									◎					

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志向性	1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1
22MCEC1122	学校臨床学特論	1	本授業では、学校現場で実際に日常的に起こっている問題解決の方法論について、多角的な視点からの最近の知見について情報提供する。実施方法としては、巡回指導の形態において、頻度が高いと想定される相談内容について問題解決のモデルを提示することにより、受講生が、学校での支援者の立場となったときに必要とされるカウンセリングの力量を高める。	学校での問題解決の方法論についての知識を習得。生徒への直接指導、教師への支援、家庭への介入、学校外の資源の活用など、解決方法の多様性の理解とともに、実践時には異なった立場であっても協力しあう関係作りを目指すことの重要性に気が付くことを目標とする。									◎			
22MCEC2222	学校臨床学演習	2	学校臨床学の分野の中でも、特別支援教育に焦点を当て、学校現場での実践的な問題解決への方法論について学ぶ。支援目標として、学校現場で緊急かつ高頻度に提出されることの多い学校場面における逸脱行動の解消を取り上げる。本授業を通して、典型的な逸脱行動の解決手段について学ぶとともに、逸脱行動の起こりやすい環境についての理解を深める。	逸脱行動の解決に向けての討議をすることによって、逸脱行動を分析し、効果的な支援の提案をすることが可能になる支援のスキルを習得する。方法としては、事例を提示して実際に事例検討を実行し、専門的知識だけではなく、支援者としての自己分析作業も行う。									◎			
22MCEC1125	教育心理学特論	1	学校臨床において必要となる児童・生徒の育ちと学びの基礎知識と実践のあり方を理解する。 本授業では、教育心理学の概念と、教育心理学を構成する諸領域について学習し、それらを通じて、今日の教育現場での問題を検討していく。この過程を通じて、学校臨床に必要な問題解決の技能を身につける。	本授業では、今日の教育現場で起きている様々な問題を、心理学の視点から分析理解するための基礎知識の習得を目標としている。これらを用いて、授業の中で提示される現場での問題を分析できるようになることを目指す。	◎	◎										
22MCEC1126	心理アセスメントの理論と実際	1	本授業では、心理教育的アセスメントの理論と実践方法について学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を経験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成方法を学ぶ。 アセスメントにより正確かつ迅速な現状把握をすることと、支援計画の作成が可能なスキルを高めることを目標とする。	アセスメントによく使用される心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を自ら体験することにより、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測する。アセスメントの結果が反映された支援計画作成を目指す。			◎									
22MCEC1127	障害児・者の教育と心理	1	特別支援教育の実施にとって不可欠である障害児・者の理解を深め、多義に渡る障害について学習、社会性、認知、運動面のアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践できるための知識を習得する。	1. 年齢を問わず、障害特性に即した支援方法を知識として習得する。 2. 各障害について、乳児期から義務教育終了後までの、臨床像を知り、利用できる支援についての情報を把握する。	◎	◎										
22MCEC2128	心理教育アセスメント特論	2	心理教育的アセスメントの必要性から開始し、理論と実践方法についての知識を学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を体験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成を実施する。	教育現場で使用されるアセスメントのための心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を学び、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測し、その結果が反映された支援計画作成を目指す。							◎					

